

佐々木工機

「非接触の厚さ測定装置」需要高まる

金属部品加工、佐々木工機（川崎市高津区下野毛、☎044・844・0338）が製造販売するオリジナル製品「非接触厚さ測定装置」が好調だ。新型コロナウイルス感染拡大の影響も受けず、半導体やガラスメーカーからの受注を獲得。6月までの受注件数は昨年実績比で倍増している。

「OZUMA（オズマ）22」と名付けた同製品は、高度な精度が求められる半導体用シリコンウエハーや液晶用ガラスなどの厚さ測定に用いる。脱下請けを目指して開発した。

独自の「エア制御技術」を採用したことで、シリコンウエハーなど、極めてデリケートな材料の測定が“非接触”で行える。従来はレーザーによる測定だったが、これだと反射する光の影響を受けやすい。その点、同装置の場合は、そもそも“非接触”なので材質を問わず安定して測れる



という。

具体的には、測定テーブルにウエハーなどの被測定物をのせ、測定ヘッドの上下ノズルからクリーンエアを吹きかけて測る。ノズルと被対象物との間隔は0.1ミリメートルで、1点の測定時間は4～5秒。分解能は0.1マイクロメートル。10回繰り返し連続測定時の標準偏差（バラツキ）は0.3マイクロメートル以下となっている。

価格は500万～900万円程度。新型コロナウイルス不況の中でも半導体製造装置は堅調な需要に支えられ国内メーカーを中心に新規・リピートの受注を獲得している。今後は取引先からの声を製品改良に反映させていく。

佐々木政仁社長は「国内市場は飽和状況ですが、成長著しい海外市場向けを強化していきたいです」と話している。